

授業科目 音韻障害Ⅰ（機能）

|                 |      |      |       |    |
|-----------------|------|------|-------|----|
| 【担当教員名】<br>磯野信策 | 対象学年 | 2    | 対象学科  | 言語 |
|                 | 開講時期 | 後期前半 | 必修・選択 | 必修 |
|                 | 単位数  | 1    | 時間数   | 15 |

【＜一般目標：G I O＞】

機能性構音障害の症状と発症のメカニズムを知り、検査法、診断法および必要な情報収集の仕方について学び、個々の症例に合った適切な訓練・指導計画を立案し実行するための具体的な方法を理解する。

【＜行動目標：S B O＞】

1. 機能性構音障害に関する基礎知識を修得する。
2. 構音検査法および診断法を修得する。
3. 訓練・指導計画を立案できる。
4. 訓練・指導の実際を理解する。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題  | SBO |                    |
|----|--|-----|--------------------|
|    |  | 番号  | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
| 1  | 構音障害、および、機能性構音障害とは何か<br>小児の構音発達<br>発症原因                          | 1   | 講義                 |
| 2  | 構音検査法<br>構音検査法の目的、種類、方法を習得する。                                    | 2   | 講義と演習              |
| 3  | 評価に必要な情報<br>医学、発達障害学、聴覚障害学等の関連領域からの情報収集、ならびに、関連諸機関からの情報収集の方法を知る。 | 2   | 講義                 |
| 4  | 診断法<br>構音障害の診断とは何か、治療の必要性について、発達という観点から考察する。                     | 2,3 | 講義                 |
| 5  | 治療計画の立案<br>治療法の選択と治療予後の見通しの立て方を学ぶ。                               | 3   | 講義                 |
| 6  | 治療法の実際(1)<br>聴覚弁別訓練法とその実際を学ぶ。                                    | 4   | 講義と演習              |
| 7  | 治療法の実際(2)<br>構音誘導法とその実際を学ぶ。                                      | 4   | 講義と演習              |

| 【使用図書】 | ＜書名＞    | ＜著者名＞  | ＜発行所＞ | ＜発行年・価格・その他＞ |
|--------|---------|--------|-------|--------------|
| 教科書    |         |        |       |              |
| 参考書    | 適宜紹介する  | 岡崎恵子他編 | 学苑社   | 1999年・4410円  |
| その他の資料 | 随時配布する。 |        |       |              |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 【評価方法】<br>定期試験により評価する。 | 【履修上の留意点】<br>発達障害学、聴覚障害学等関連領域の知識が必要とされる。 |
|------------------------|--|

言語聴覚学科 専門